

# 研究実施のお知らせ

2026年2月12日 ver.1.0

## 研究課題名

人工股関節全置換術後早期の身体活動量に影響を及ぼす因子を明らかにする後方視的研究

## 研究の対象となる方

2024年6月から2025年12月の間に島根大学医学部附属病院で変形性股関節症に対して人工股関節全置換術を受けられた方

## 研究の目的・意義

変形性股関節症に対して人工股関節全置換術を受けられた方の多くは、手術後に痛みが軽くなり、歩きやすさなどの体の動きが徐々に改善していきます。手術後は、体の回復をうながすために、できるだけ早い時期からベッドの上だけで過ごさず、立ったり歩いたりすることが大切だと考えられています。これまでの研究から、手術後の早い時期に、低強度の活動（立つ・歩くなど）を多く行った方ほど、歩く力の回復が早く、入院期間が短くなる傾向があることが分かってきました。しかし、「どのような身体の状態や気持ちの状態が、手術後の活動量に影響しているのか」については、まだ十分に明らかになっていません。そこでこの研究では、手術の前後における体の機能、痛みの程度、気持ちの状態などが、手術後の活動量にどのように関係しているのかを調べます。これにより、手術後に無理なく体を動かせるようにするために、どのような支援や関わりが大切かを明らかにすることを目的としています。

## 研究の方法

この研究は、当院の人工股関節全置換術後の患者さんのデータを用いて、手術前、手術後の身体機能、疼痛、心理状態と、手術後の身体活動量との関連性を解析します。具体的には、電子カルテ情報から年齢、身長、体重などの個人データ、入院中に装着した活動量計のデータ、入院中に計測した筋力や歩行速度などのデータを収集します。通常診療で取得するデータのみを使用するため、研究のために新たに検査を追加することはありません。また患者さんのデータは個人を特定できないようにし、研究対象者リストは研究責任者が保管します。

## 研究の期間

2026年3月31日～2027年3月

## 研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。その際にあなたのお名前など個人を識別できる情報を使用することはありません。

## 研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院リハビリテーション部 難波春地

## 情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2026年10月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

## 相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院リハビリテーション部 難波春地

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2457